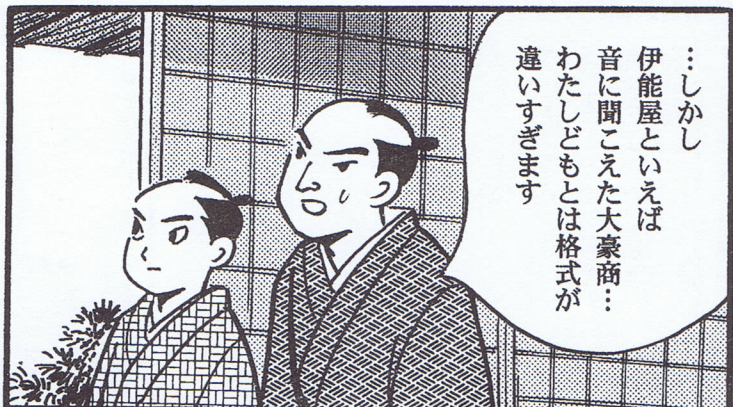
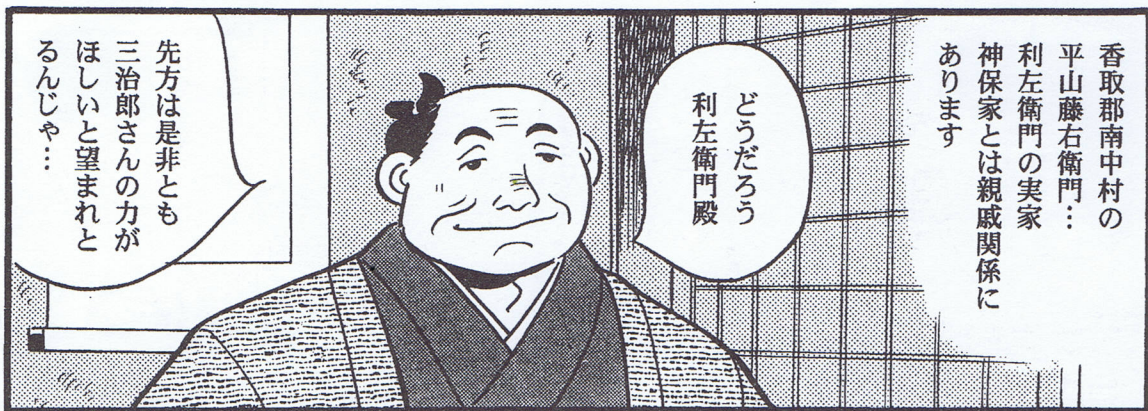
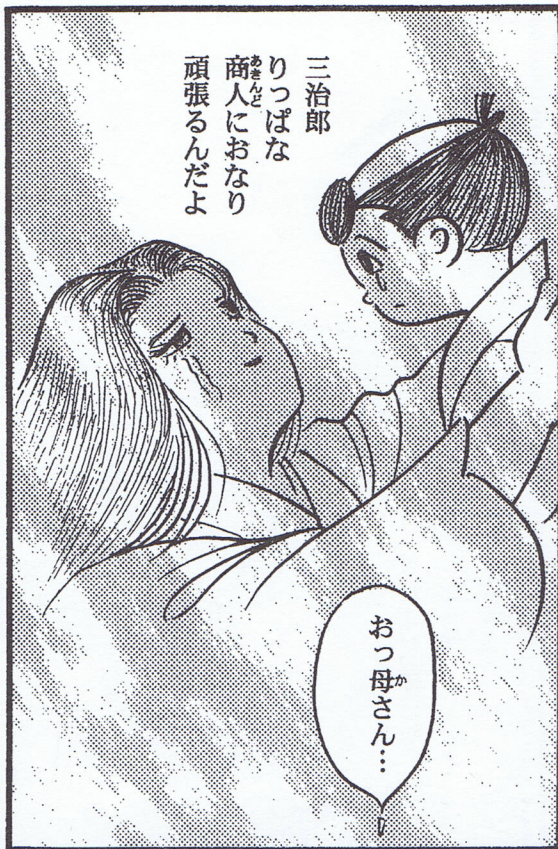
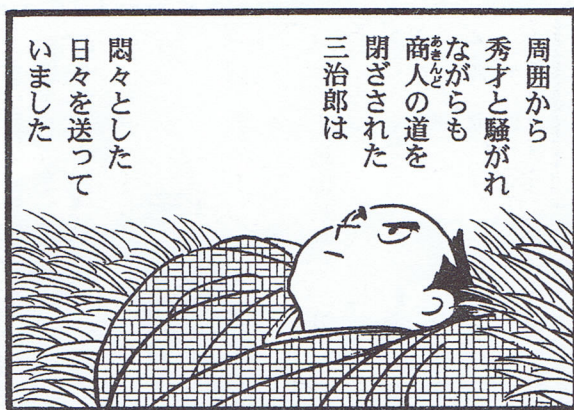
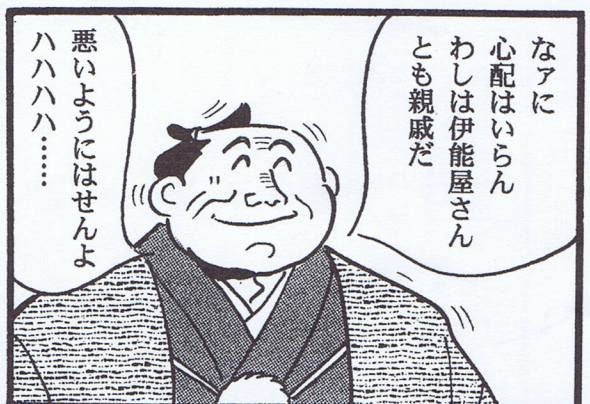
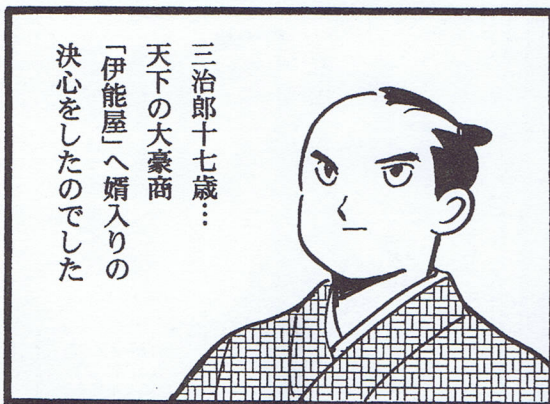
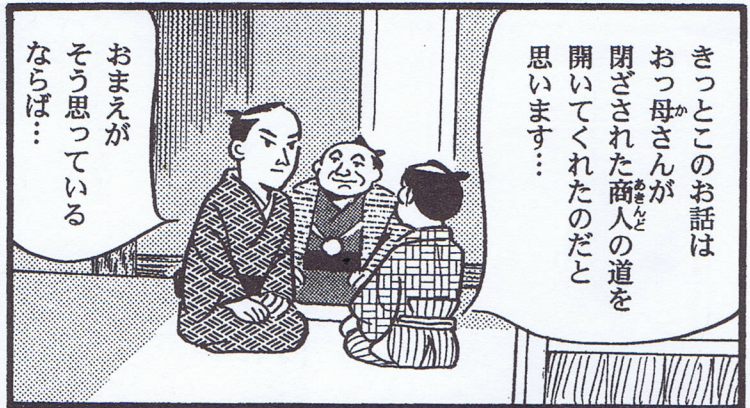
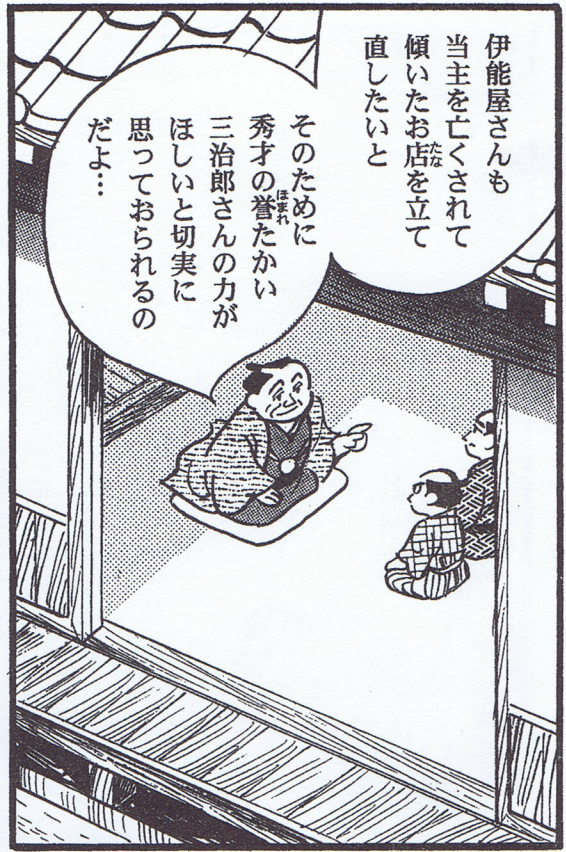






「伊能屋」へ
婿入りの決意をした
三治郎は…
伊能家との釣合をとる
ために神保家の親戚で
一番羽振りのよい
平山藤右衛門の養子に
はいりました

大学頭の
林鳳谷様の
お屋敷だよ

お父つっあん
ここは？

林様
どうかここに居り
ます息子三治郎の
ためにお力添え
お願いいたします

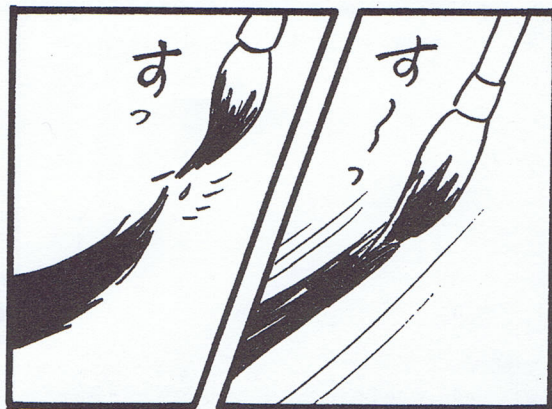
うーむ…

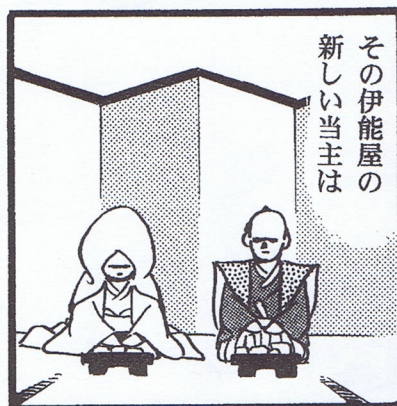
大学頭
林鳳谷

藤右衛門
よい名を思い
ついたぞ！

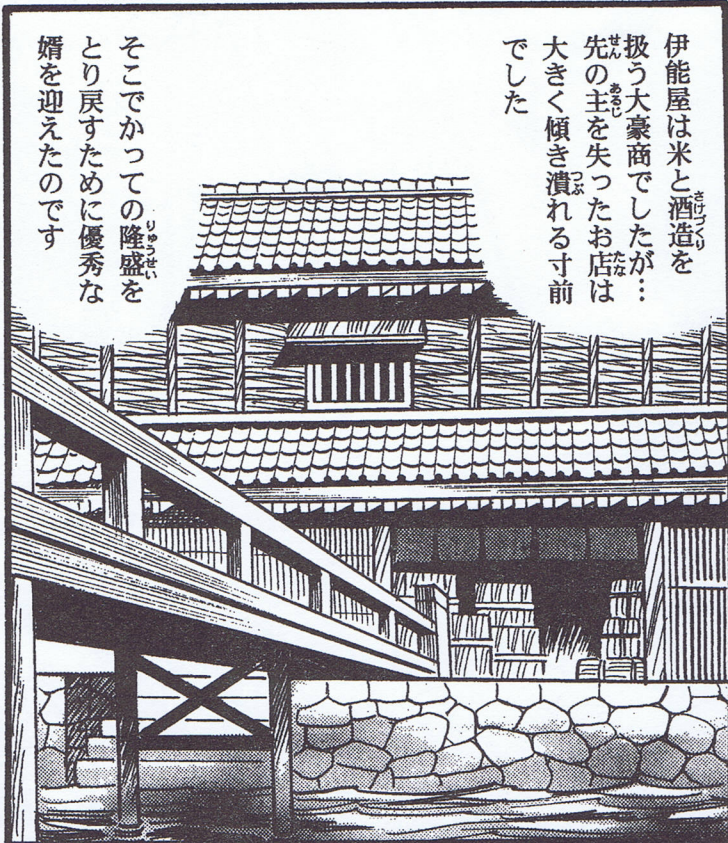
おおっ

藤右衛門はさうに
箔をつけようと
大学頭の林鳳谷に
三治郎の名づけ親を
願いでたのです



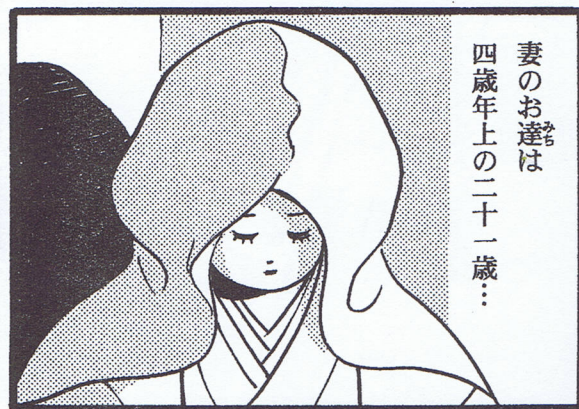


その伊能屋の
新しい当主は

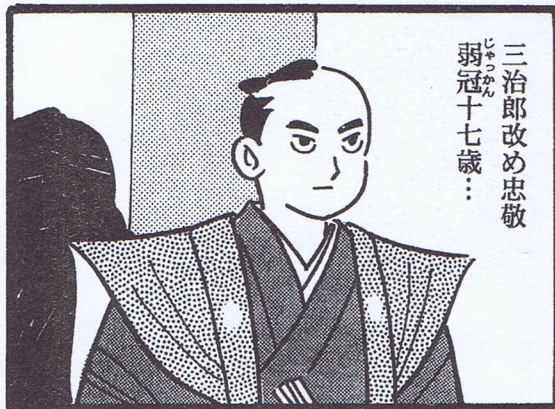


伊能屋は米と酒造を
扱う大豪商でしたが：
先の主を失ったお店は
大きく傾き潰れる寸前
でした

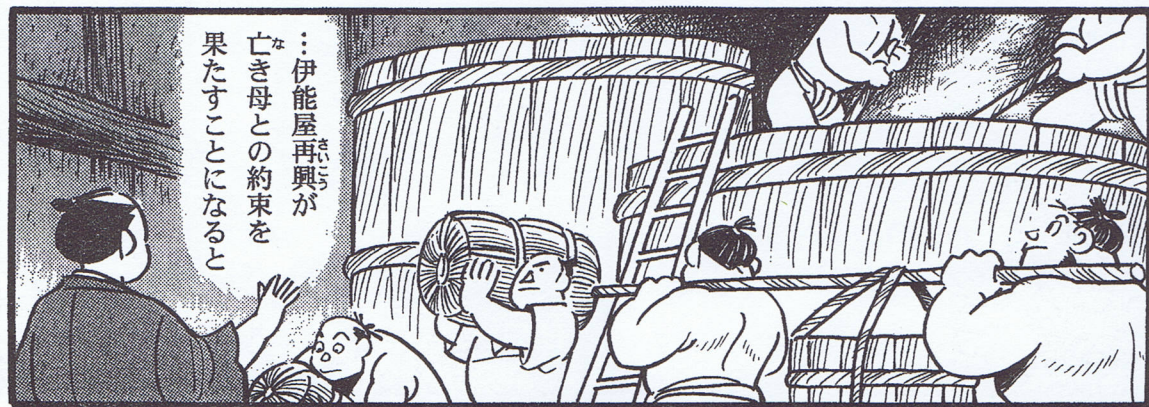
そこでかつての隆盛を
とり戻すために優秀な
婿を迎えたのです



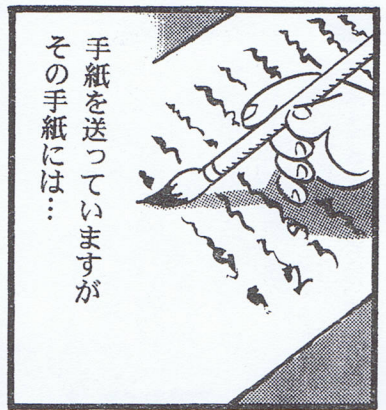
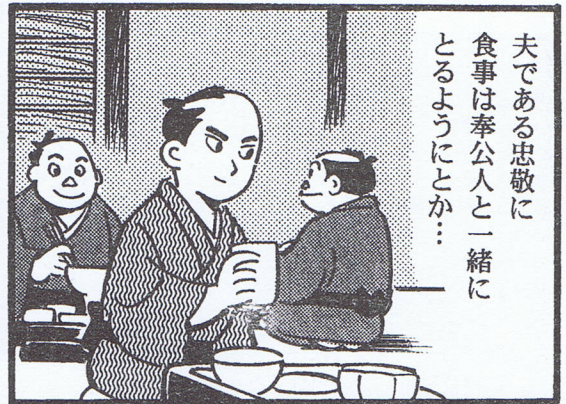
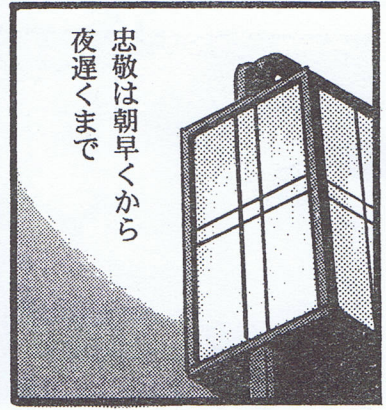
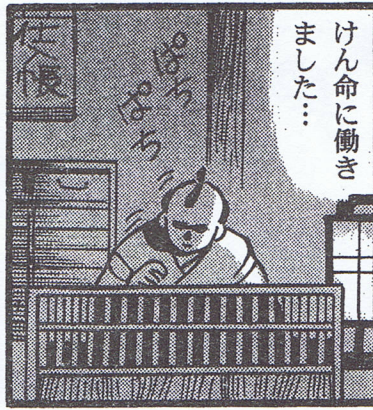
妻のお達は
四歳年上の二十一歳…



三治郎改め忠敬
弱冠十七歳…



…伊能屋再興が
亡き母との約束を
果たすことになる





忠敬は伊能屋の婿に
迎えられて以来
誰よりも早く起き
誰よりも遅く寝て
先頭にたって働き
続けました

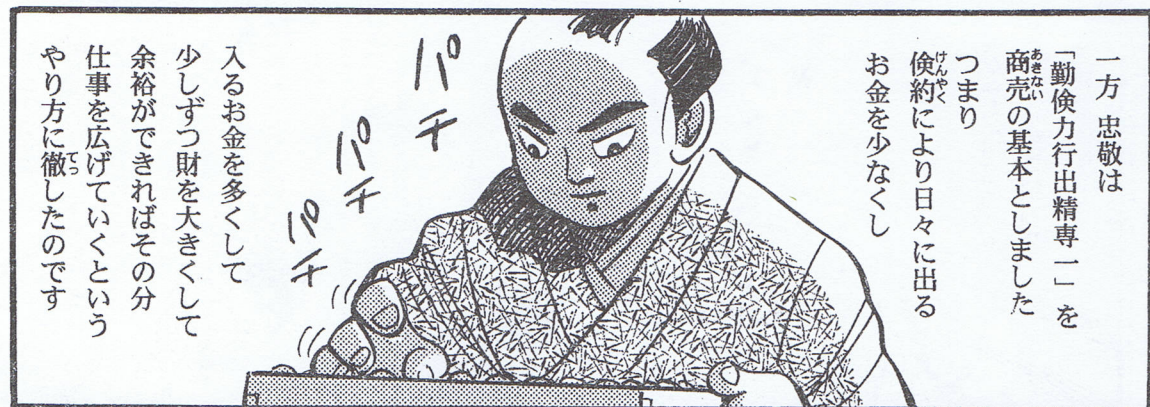


七郎右衛門は
忠敬に伊能屋が
名門である
こと…

競争相手の豪商との関係
などについて徹底して
指導しました



若い忠敬に
商売の手ほどきをしたのは
伊能屋の分家の七郎右衛門
でした…



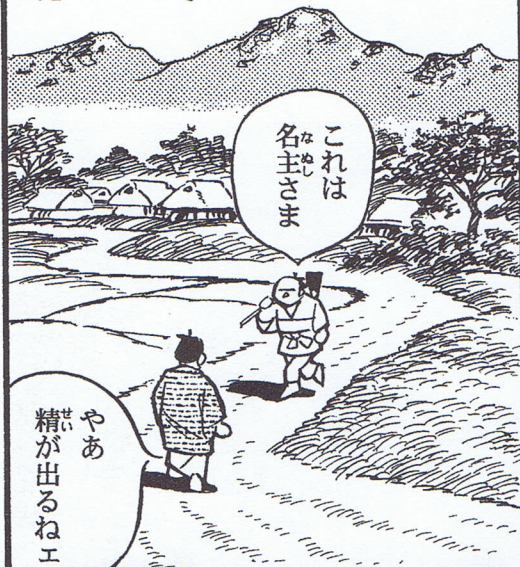
一方 忠敬は
「勤儉力行出精專一」を
商売の基本としました
つまり
儉約により日々に出る
お金を少なくし

入るお金を多くして
少しずつ財を大きくして
余裕ができればその分
仕事を広げていくという
やり方に徹したのです

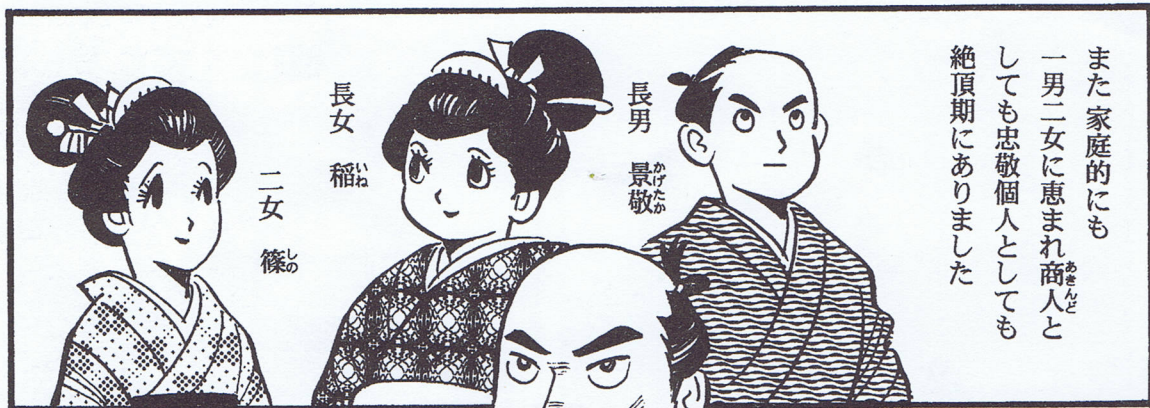
その努力が実を結び
伊能屋は前にもまして
隆盛を極め
忠敬はいまや押しも
押されもせぬ伊能屋の
大旦那になっていました



また佐原村は
五つの組に分かれて
いましたが
その中の本宿組の
名主でもありました

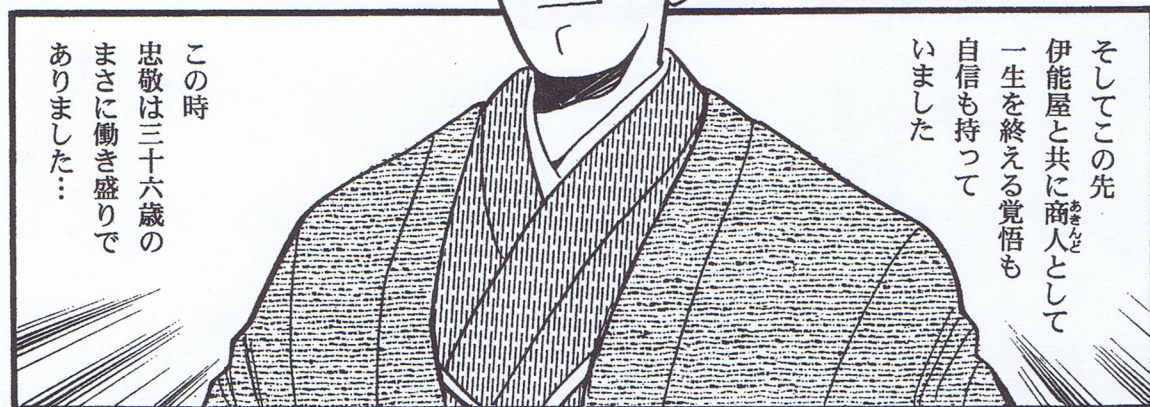


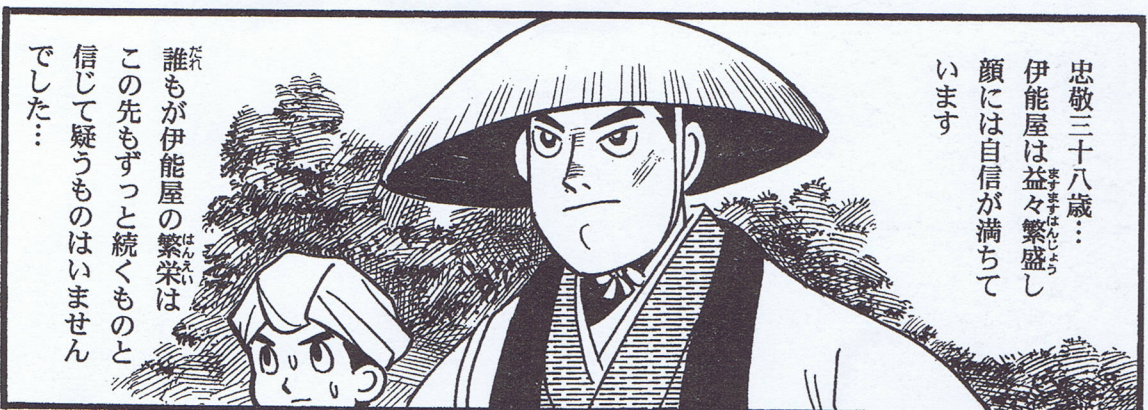
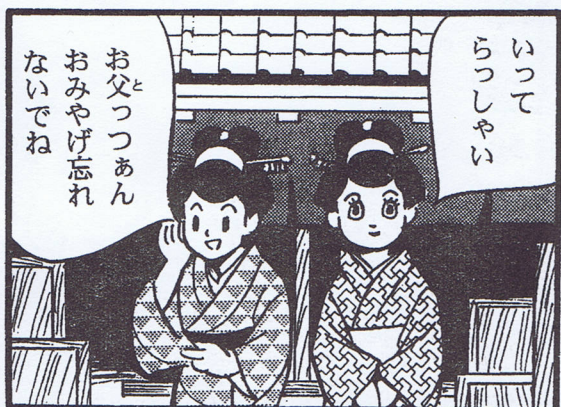
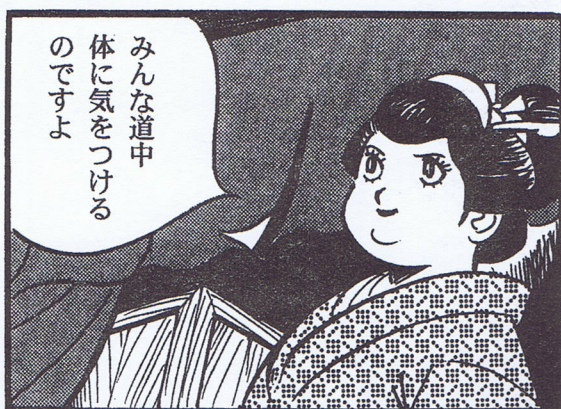
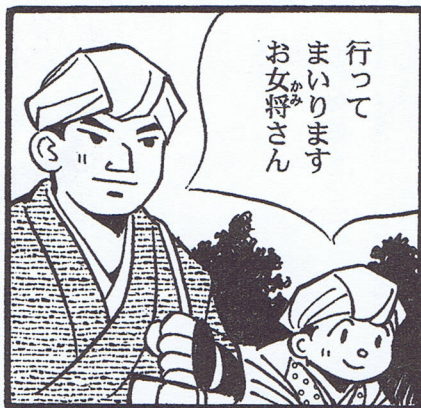
また家庭的にも
一男二女に恵まれ商人と
しても忠敬個人としても
絶頂期にありました

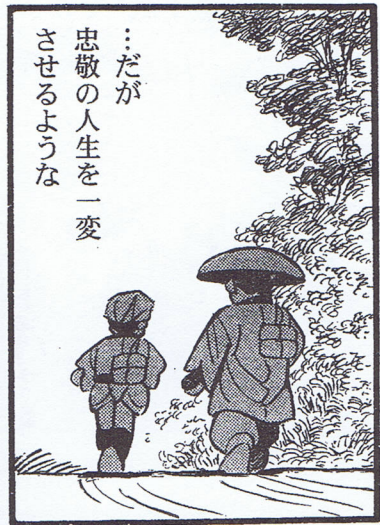


そしてこの先
伊能屋と共に商人として
一生を終える覚悟も
自信も持っていました

この時
忠敬は三十六歳の
まさに働き盛りで
ありました…



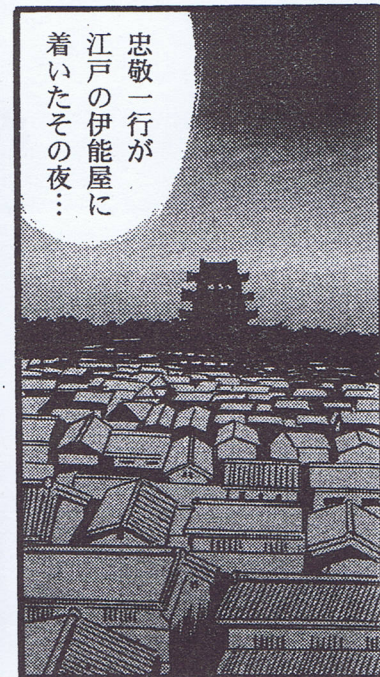




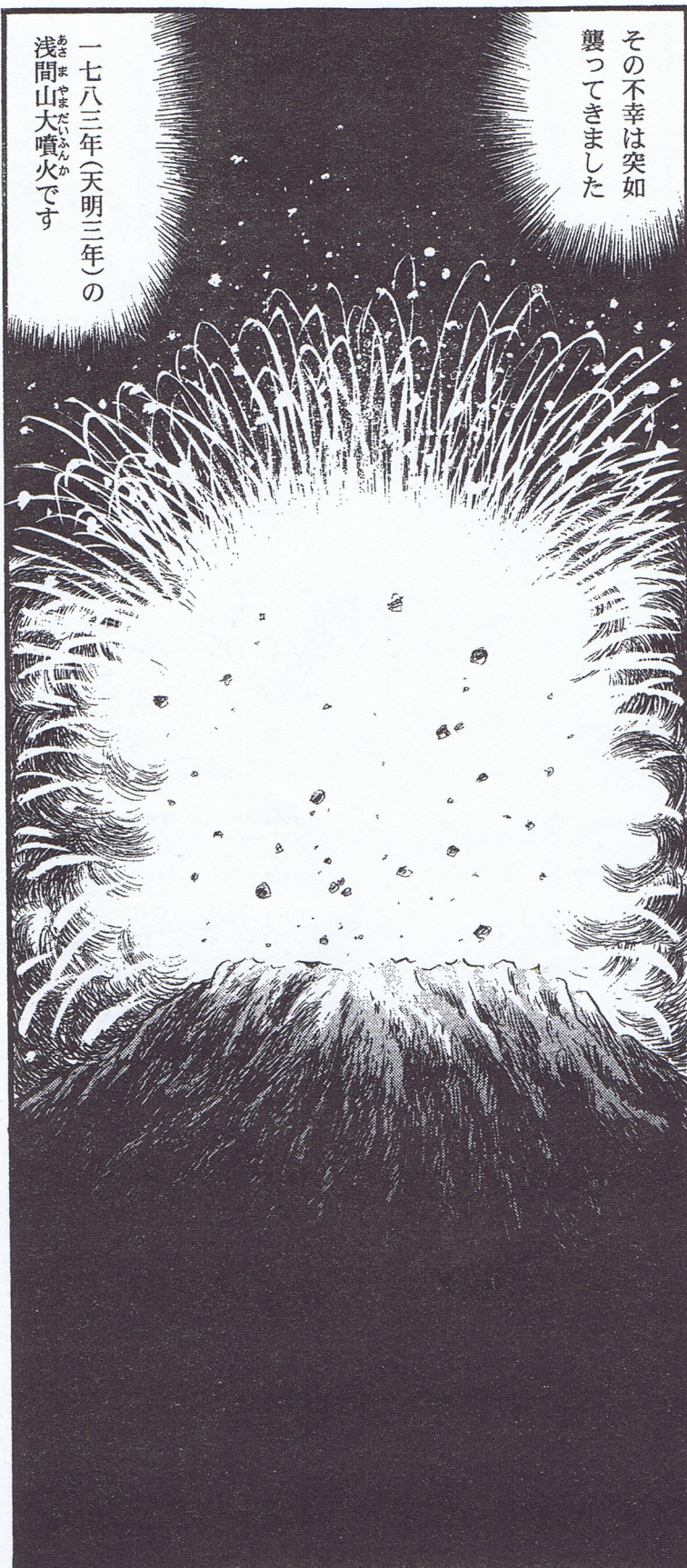
…だが
忠敬の人生を一変
させるような



ある不幸が
忍び寄って
いました…



忠敬一行が
江戸の伊能屋に
着いたその夜…



その不幸は突如
襲ってきました

一七八三年(天明三年)の
あさまだんか
浅間山大噴火です